

バスケットボール戦評記入用紙

大会 (新人・春季・インターハイ・夏季)  
 試合 (決勝・準決勝・決勝リーグ・5-7位決定戦・代表決定戦・その他)  
 日時 6月 22 日 日 曜日 第 1 試合 時刻 10:00  
 記入者名 祐木 毅

A チーム	得点	(	)	得点	B チーム
<u>ふじみ野高校</u>	<u>51</u>	17-19	6-23	15-15	<u>72</u> <u>正智深谷 高校</u>
		13-15			

戦評

第1P、出だしは両チーム共にマンツーマンディフェンスでスタートする。先手を取ったのはふじみ野。#6、#8の3Pシュートが決まりリードする。正智深谷も最初こそシュートが決まらないが、#4の3Pシュート、#11のステップインシュートですかさず追いつく。その後もふじみ野#10のポストプレイ、正智深谷は#6のドライブインシュートと両チームの持ち味が出て一進一退の攻防が続く。

第2P、正智深谷の機動力を生かした攻撃が目立つようになる。ドライブインからキックアウトで#10のジャンプシュート、#6の速攻からのレイアップで流れを引き寄せせる。ふじみ野はたまたまタイムアウトをとる。タイムアウト後、ふじみ野は積極的にシュート放つものの、リングに嫌われ得点できない。正智深谷は#6、#10の3Pシュート、#5の速攻からのレイアップシュートと完全にリズムに乗り、点差を広げる。

第3P、ふじみ野は2-1-2ハーフコートゾーンプレスから3-2ゾーンで流れを変えようとする。正智深谷の勢いが止まるが、ふじみ野も得点できない。両チーム苦しむ中、正智深谷は#4の3Pシュート等アウトサイドシュートが決まりだし、流れは正智深谷に。しかし中盤からふじみ野#11のポストプレイが決まり出し、流れを変える。ここで点差を詰めたふじみ野だが、終盤のシュートが決まらず、逆に正智深谷#4のレイアップシュート、#10の3Pシュートを許してしまう。このピリオド15-15の互角の戦いとなる。

第4P、両チームとも得点できずに苦しむ。このピリオドも互角のまま試合は進む。正智深谷は20点のリードを何とかキープし、残り3分、ベンチメンバーをコートに出す。ふじみ野も最後まで諦めずに#8、#11がミドルシュートを決め食い下がるが点差を縮めることはできない。結局、第2ピリオドの大量リードを守りきった正智深谷が勝利し、3位の座を獲得した。